

## 説明文書

### 肺がんに対する薬物療法

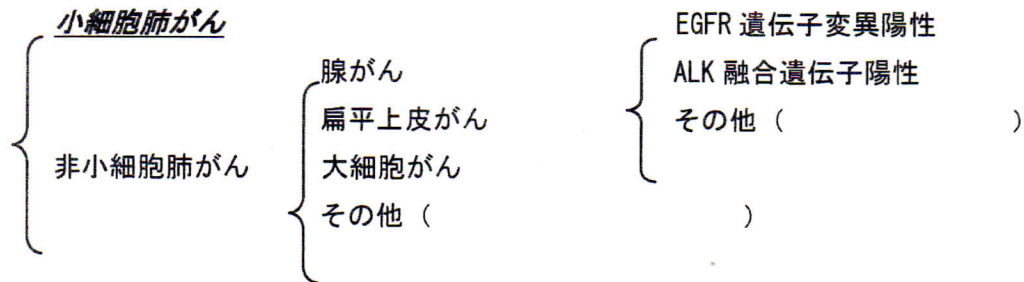
#### 1 あなたの病名と病期の状態

##### a. 病名

肺がんは肺から発生する悪性腫瘍(がん)です。がんの大きくなるスピードや転移の仕方、抗がん剤や放射線に対する効き具合などはがんの種類により異なります。

肺がんは大きな分類で小細胞がんと非小細胞がん2つに、非小細胞がんは更に3つの主要なタイプに分かれます。後者の分類ははっきりしないこともありますし、特殊なタイプの肺がんもあります。

あなたの病気のタイプを以下に記載しました。



##### b. 病期

肺がんの診療にあたっては、胸部-腹部のCT、脳MRI、PETなどの検査で病変の広がり検索し、進行の程度により病期を決めます。

あなたの病気の進展程度は以下のようです。

##### ① 原発巣(病期の発生部位):

右肺

上

サイズ: 約 3 (上下方向) cm

その他: 胸水      無, 周囲の臓器への浸潤      無



5908045122 福上 佳美

## ② リンパ節腫大

肺の入り口のリンパ節への転移	画像上は不明
原発巣側の縦隔（右肺と左肺の間）への転移	有
原発巣と反対側の縦隔への転移	無
鎖骨の上のリンパ節への転移	無

## ③ 今回の検査では

（右上）肺内転移はあり。  
遠隔転移が見つかりませんでした。

がんは本来顕微鏡でのみ見ることができる小さながん細胞でできています。このため「CT, MRI, PET で遠隔転移が見つからなかった」ことは、「その場所には全くがんがない」ということを意味するわけではありません。

これらにより、あなたの肺がんの病期は

I 期      II 期      III 期      IV 期

となります。

ちなみに、病期は以下のように決まります。

I 期：      がんが原発巣のみに留まっている場合

II 期：      原発巣と肺の入り口（肺門）のリンパ節のみにがんがある場合、または原発巣が肺の周囲の臓器に進展している場合

III 期：      II 期よりもがんが広がっているが、原発巣の周辺と胸の中のリンパ節に留まっている場合

IV 期：      III 期の範囲を越えて他の臓器（例えば骨、脳、肝臓など）にがんが進展している場合

**2** 治療の目的

肺がんは放置すれば進行し致命的な結果をもたらします。今回の治療（薬物療法）では、可能なら肺がん細胞を全部死滅させること、それができない場合でもがんを縮小させることを目的としています。

今回の治療では

- ① 手術はできないため、薬物治療を単独で行う。間質性肺炎があり、化学療法のみを行います。
- ② 外科的な手術の後治療として薬物治療を行う。
- ③ 薬物治療を行ってから外科的な切除を予定している。



5908045122 福上 佳美

### 3 治療の内容と効果

#### a. 化学療法

ここでいう化学療法とは、従来の抗がん剤治療のことを言います。この中には殺細胞性抗悪性腫瘍薬や分子標的治療薬と呼ばれるものが含まれます。

事前の検査で特定の遺伝子変異が検出されている場合は分子標的治療薬を選択することもあります。分子標的治療薬は多くは内服治療で、奏効率が高いことが特徴です。

一般的にイメージされる化学療法は殺細胞性抗悪性腫瘍薬で、第3世代の抗がん剤と呼ばれる薬剤のうち1剤とプラチナ製剤（シスプラチン、カルボプラチン）の計2剤を併用するのが標準的です。2剤の併用が困難な場合は1種類の薬剤を用いることもあります。また、プラチナ製剤を用いずに2-3種類の抗がん剤を組み合わせる治療を行うこともあります。

抗がん剤治療のスケジュールと副作用に関しては別の資料を添付しますので参照してください。

化学療法はできれば2サイクル以上行う予定ですが、副作用のある治療ですので、経過を見ながら進めることになります。また、副作用や効果によっては使用する抗がん剤を変更することもあります。

#### b. 免疫療法

免疫療法はもともと自分自身が持っている「がんを攻撃する力」を高める薬剤です。免疫機能が正常に働いている状態では、私たちの体はがん細胞を「自分ではないもの」と判断し攻撃します。しかし、がん細胞は免疫を抑制するシステムを利用し、攻撃を受けないようにすることが分かっています。免疫療法では、がん細胞が免疫機能を抑制する働きを弱め、自分自身のがんを攻撃する機能を高めるような薬剤を使います。ただし、病気の種類や状態、合併症等により使用できない場合もあります。

免疫療法の治療スケジュールと副作用に関しては別の資料を添付しますので参照してください。

#### c. 奏効率

薬物療法により腫瘍のサイズが半分以下になった場合に「効果がある(=治療が奏効している)」と判定します。薬物療法の奏効率は使用する薬剤や、それまでにどれだけ他の薬物療法を受けているか、などにより大きく異なります。その都度、担当医にご確認ください。

また、薬物療法を受けることにより、どのくらいの延命効果があるかについて当院で治療を受けられた方の記録をもとに計算した数字は、当院のホームページ(下記 URL)に掲載されていますので、ご覧になりたい場合は参照してください。

<http://www.mc.pref.osaka.jp/hospital/patient/gansenmoni/kokyuukinaika.php>





5908045122 福上 佳美

## 4 予想される副作用

### a. 化学療法の副作用

抗がん剤は通常の薬剤より副作用の強い薬です。

抗がん剤は細胞が分裂して増加する時に必要な核酸（遺伝子の元）や蛋白質などに作用するため、身体内の細胞分裂が盛んな部分に影響を与えます。人体には他の部分より盛んに細胞分裂を行っている細胞があります。血液細胞（白血球、赤血球、血小板など）を造る骨髓細胞、口の中の粘膜細胞、胃や腸の粘膜細胞、毛根の細胞などで、抗がん剤はこれらの細胞に障害を与え、副作用を引き起こします。化学療法時に高頻度に出現する副作用には以下のものがあります。

#### 1) 血球減少

骨髓細胞が傷害されると、白血球、赤血球、血小板が減少します。

白血球が減少すると感染にかかりやすくなります。白血球の中でも好中球という細胞は感染に対する抵抗力に関わっており、正常では1,500個/ $\mu$ l以上ありますが、500個/ $\mu$ l以下になった場合には、マスクをしたり、人混みの中に行かないというような注意が必要となります。

現在はG-CSFという白血球を増加させる薬がありますので、必要と判断された場合はG-CSFを注射します。発熱が見られる場合や感染症が見つかった場合は、抗生物質などによる治療が必要になります。

出血を止める働きをする血小板が減少すると出血しやすくなります。血小板が2~3万/ $\mu$ l以下になると皮下に出血による青あざがでるなどの易出血性が見られるようになり、1万/ $\mu$ l以下になると消化管出血、脳出血、肺出血（肺出血はまれです）などの生命の危険に直結する症状が出てきます。この場合、血小板を輸血で補う（血小板輸血）ことが必要となる場合もあります。

赤血球が一定程度以下に減少（貧血）すると貧血の症状が出現し、治療の継続も困難となるため、赤血球製剤を輸血することが必要となる場合があります。輸血には種々の副作用があるので、輸血が必要な場合には改めて説明します。幸いなことに肺がんの治療では血小板や赤血球の輸血が必要となることはあまり多くありません。

#### 2) 消化器症状

口内炎、吐き気、嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、しゃっくりなどが主な症状です。これらの程度は使用する薬剤により異なりますが、ほとんどの人に出てきます。現在は強力な吐き気止めが使用可能で、嘔吐はなく、食欲が少し低下する程度の軽い吐き気がみられる場合がほとんどです。食欲低下が強い場合には輸液が必要となる場合があります。

#### 3) 脱毛

肺がんに対して使用される化学療法の中には、著明な脱毛をおこすものと、脱毛の程度の軽いものがあります。



5908045122 福上 佳美

#### 4) アレルギー・炎症

抗がん剤だけではありませんが、薬剤を使用した場合はアレルギーや炎症がおこる可能性があります。皮疹やかゆみが出たり、喘息のような症状が出たり、ひどい場合には呼吸困難、血圧低下などの生命が危険となる強い症状が出ることもあります。また、注射した血管に沿って炎症がおこることもあります。

上記の副作用、その他の副作用の出現頻度や強さは使用する薬剤により異なります。詳細は各薬剤の副作用の説明文書を参照してください。

2種類以上の薬剤を併用した場合の副作用は、それぞれの副作用の単純な足し算にはなりません。今回使用する薬剤の組み合わせは、すでに世界や日本で有効性、安全性の検討がなされています。

#### b. 免疫療法の副作用

免疫療法では、薬剤の注射に伴う強い全身反応(infusion reaction: インフュージョンリアクション)や、過度の免疫反応が起こることがあります。

主な副作用は以下の通りです。詳細は各薬剤の副作用の説明文書をご参照ください。

間質性肺疾患、肝機能障害、甲状腺機能障害、副腎障害、Infusion reaction、神経障害、重症筋無力症、大腸炎・重度の下痢、腎障害、皮膚障害、脳炎、膵炎、静脈血栓塞栓症 など

#### c. 薬物療法全体について

化学療法でも免疫療法でも副作用には個人差が大きく、上記の副作用以外にも緊急入院を要するような副作用が出現する場合や、1%程度の方に死亡にいたる重篤な副作用が出現する場合があります。命にかかわる重大な副作用としては、間質性肺炎、感染症(肺炎、腸管感染症など)、腸管穿孔、アナフィラキシーショック、血栓塞栓症などがあります。

また、もともと何らかの疾患を抱えている場合は、その病気が悪化することもあります。

## 5 代替医療の内容

あなたの病気に対する治療法として、上記の治療法以外に免疫療法や温熱療法、その他多くの治療法が検討されています。これらの治療を選択することも可能ですが、明確に有効性が証明されている治療法は現在上記の方法だけです。

## 6 治療をしなかった場合の結果

この病気は悪性であり、まったく治療しなかった場合は月単位で病気が進行します。病気が進むと様々な症状が出現します。呼吸器の症状としては咳、痰、血痰、呼吸困難、重要な臓器である肝臓、肺、脳、骨などに転移すると、神経症状(脳転移による)や疼痛(骨転移による)





5908045122 福上 佳美

のような生活に支障をきたす症状が出現するだけでなく、生命自体が危険になってきます。

## 7 患者様の具体的な希望

## 8 同意とその撤回

この文書とそれ以外に提供する文書などを読み、主治医ともよく相談して下さい。そのうえで、あなたの治療法はあなたが決めることができますし、あなたに決めていただく（同意していただく）必要があります。この治療法に同意していただける場合は同意書にサインをお願いします。

いったん同意書を提出した後も気持ちが変わった場合は、治療前、治療中、治療後にかかわらず同意を撤回しこの治療をやめることができます。その際にあなたが治療上不利になることはありません。

主治医を含めて医療スタッフはいつでもあなたの味方ですので、同意の撤回を含めてどんなことでも気軽に相談してください。

## 9 セカンドオピニオンを得る権利

あなたの病状や診療などについてほかの医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことを希望される場合には必要な資料を提供いたします。ただし、入院されてからですと診療に支障を来しますので、セカンドオピニオンは入院までにお申し出ください。

## 10 連絡先

本処置について質問がある場合や、処置を受けた後に緊急の事態が発生した場合、同意を撤回する場合には、下記まで連絡してください。

### 【連絡先】

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前 3-1-69

病院：大阪国際がんセンター 主治医

夜間、休日の緊急連絡は当直医

電話：06-6945-1181

